平成３０年度第１回辰野町総合教育会議議事録

【日時】
平成３１年２月４日（月）
開会　午前１０時００分
閉会　午前１１時３１分

【会場】
辰野町民会館１０４学習室

【出席者】
１２名

（辰野町関係者）

辰野町長	武居　保男
辰野町副町長	山田　勝己

（辰野町教育委員会）

教育長	宮澤　和徳
教育長代理	根橋　久人
教育委員	村上　陽子
教育委員	垣内　由佳
教育委員	関　　政彦

（事務局関係）

総務課長	小野　耕一
生涯学習課長	原　　照代
こども課長	加藤　恒男
学校教育係長	桑原　さゆり
学校教育係	三村　瑞樹

【傍聴者】
５名

１．開会のことば

＜小野総務課長＞

定刻になりましたので本会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

２．町長挨拶

＜武居町長＞

本年度最初の総合教育会議になります。10 月の町議会におきまして、総合教育会議に関連する質問を頂いたところです。ここで改めて本会議の目的、主旨等について確認させていただきます。地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴いまして平成 27 年 4 月 1 日より教育委員会制度が多く改正されました。教育行政に関わる町長や教育長の責任がより明確にされました。その中で町長は教育大綱を教育委員会と協議して定める、また、町長と教育委員会が協議調整する総合教育会議の設置が義務付けられました。

この会の主旨は次のように示されています。「町長は従来の制度においても、予算の編成や執行、条例案の提出等を通して教育行政に大きな役割を担ってきたが、さらに町長と教育委員会の意思疎通を図り辰野町の教育課題、目指す姿等を共有し連携して効果的に教育行政を推進していく為、総合教育会議を設置する」となっております。この会議は原則公開としていますので、本日は傍聴の皆様、報道の皆様、誠にありがとうございます。

本日の協議で、辰野町の教育環境をめぐる課題もございます。川島小の問題もそうですが、議題にあります町内教育設備の空調設置、トイレの洋式化工事、町内の社会教育施設の整備、または保育園の環境設備について皆様のご意見をお聞きしながら町と教育委員会の課題を共有し、目指す方向性を共有し一緒に目指せるようになりますように挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

３．教育長挨拶

＜宮澤教育長＞

今日の総合教育会議に際しまして多くの傍聴の皆様に来ていただきました。関心の高いテーマもございます。ありがたく思っているところでございます。さて、1 月はインフルエンザが全国的に流行し、辰野町の小中学校、保育園におきましても大変厳しいものがございました。小中学校では学級閉鎖が複数ありましたが、おかげさまで辰野町では収束に向かっています。

さて今日は平成 30 年度最初の総合教育会議になります。1 年が経過したので、この間の状況に対する協議が中心になると思います。町長が申されました、少子化と社会情勢の変化に伴って児童数が減少している川島小学校ですが、昨年の総合教育会議から約 1 年が経過して、その間の状況等をお互いに理解をし、その上で町の教育環境、子供の学びの環境の一層の向上に努めていければと思っております。

また、新たな教育課題として、1 年前は想定もしていなかった猛暑に対する空調の整備の問題、小学校のトイレの問題もありますし、新学習指導要領に関わる町の教育施策もございます。大変な状況でございますが、町長側と緊密に連携を図っていくことが出来ればと思います。

議会でも答弁しましたが、総合教育会議やトイレ、ICT 等については度々、町長の元へ行き協議を重ねてまいりました。ですから町長と教育委員会の連携は緊密に取れていると感じています。一方で、見方を変えると 2 万人を切る小さな町ですのでそれだけでは町民に施策が伝わりません。今の状況が理解できない実情があるのではない

かと思います。そこで先日、町長と懇談した中で、来年度からは総合教育会議を年に2回は開催することを話し合いました。限られた時間になりますが有意義な会になることを望みます。お願いいたします。

４．協議

（１）川島小学校を取り巻く状況についての意見交換

① 改めて川島小学校の今後について

② 川島小学校の教育環境整備について

③ その他

・宮澤教育長より「町内小・中学校の今後に対する辰野町教育委員会の見解」（H30.2.21）について説明。「子供の学びの環境、質」の観点から「町内小・中学校の今後に対する辰野町教育委員会の見解」を修正する必要はないことを確認する一方で、町長が３年という考えを示した以上、川島小の子供の学びの質の低下を極力招かないような支援を行う。ICT、トイレの洋式化、空調整備も進める、と報告。

＜教育委員＞

川島小学校に関しましては移住定住といった取り組みを進めていただいたおかげで移住者が増え、川島小学校へ入学する児童も増えていると聞いています。町全体で取り組んでいただいている移住定住施策のおかげだと思います。しかし、川島地区からの子供が川島小学校へ入学されないということがあります。川島地区において、川島小学校への思いが薄いのかと感じます。

今後、どうするのかという点ですが、子供たちの学びを考えてみますと、今の１人２人の学年でいいのか、という思いもあります。地域や学校にとっては１人でも２人でも子供が増えてくれれば非常にいいことだと考えます。川島全体でこうした機運が盛り上がってくれればいいのかなと思います。心配だったのは学校の環境整備についてでしたが、少人数であってもきちんとした学びの環境を作ってあげて欲しいと思います。将来はわかりませんが、今いる子供たちの為に配慮をしていかなければならないと思います。

＜山田副町長＞

町長が川島小学校を存続させるということを発表してから町も３回、川島小学校を考える連絡会議をしています。つい先日も、飯田市の市長をお呼びして地域づくり勉強会を開きました。飯田市長から色々な話を聞きました。人口減少社会における地域コミュニティーのあり方というテーマで川島区の皆様も何人か来ていただいて、また川島区以外からも 15 人ほどの方に来ていただきました。飯田市の事例の中に上村地区というところがあり、人口も 415 人ほどで高齢化率も高い地区です。この地区に上村保育園という保育園がありましたが、飯田市と合併するときに存続させるか無くすかという問題があったそうです。その時に、市長は残すという方針を打ち立てて、人数は当時３人ほどで、現在は５人だそうですが、残ることでその地域が、自分たちで持続可能にする地域コミュニティーを作っていこうと盛り上がっていると伺いました。

そのような話を聞いて、変わってきたなと思うのは、川島区と町でやっている連絡会議が第２回までは行政に対する要望が多く、それに対して行政側が答えることが多かった。その講演会を受けてかわかりませんが、第３回からは区長から「行政に頼るだけでは難しい。取り組みに対して、区も行政も互いに真摯に向き合っていこう」と挨拶があり、中身も「町はこう考えています」というと「これはこうした

方がいいのではないか」とやりとりが出来るようになってきたと思います。これを続けることによって行政と区が同じ方向を向いて良い方向性に向かえば良いと思います。
＜教育委員＞
（町長に対し）前回の総合教育会議の時に3年間のチャレンジ期間を設けるとしましたが、どういった成果を持って判断の基準とするのか教えていただきたい。子供たちは少ない人数の中でも様々なことを考えて生活、学習していると思いますが自分の考えを持って、他の人の意見を聞いて、「そういった意見もあるんだ」、「自分と違うけど、そういった見方もあるんだ」という経験をしてもらいたいと思います。

＜武居町長＞
先日、地元のみなさんのとの懇談でも様々な質問を頂いて答えさせていただきました。1つは3年を期間としたことで、地元の皆さんからは「延ばしてくれ」、「短い」といった声がありましたが、それは違うとお答えしました。教育委員会があり方検討委員会を開き、そこで議論を重ねた答申はもちろん尊重しております。言われた基準というのもそれに伴ってくると思います。
今何もやらずに過ごすよりは、何か挑戦していく方が、地域の皆さんにとってもいいという判断をさせていただきました。ではその基準の判断をだれがするのか、第三者委員会がするのか、今後検討させていただきたいと思いますが、本格的な挑戦はこれからですので、同時進行で考えて行きます。前町長はいったん統合の方向性をとっていて、これも大変悩んだ末のものであったと思います。移住政策は功を成して、入ってきていただける方が川島小学校に魅力を感じてくださっています。前町長も本当に悩みました。私も町長になってから最初の壁は川島小でした。移住してくださった方が川島小を良しとして、地域の方が外に出て行ってしまう問題はとても難しい話です。どちらの結論を出しても猛反発があると思います。正直に言いますと、いまだに私は「移住者によって川島の環境が壊されてしまう」と地域の方から言われてもいます。どこかで地域の皆さんと分かり合える部分を求めて行きたいと思います。
副町長も言いましたが、今やっとひとつの流れが変わってきたかなと感じています。決してこれは行政が突っ走ってもいけませんので、この1年は会話を進めながらじっくりと待っていた1年でした。行政も地域で思い等を統一して、思いを要約してほしい思いもありました。一方、地域は町長が言ったことですので、行政がやってくれるという姿勢でした。ようやくここへ来てお互いの姿勢を理解し合えるようになってきたと感じます。
いつからを基点に3年とするかですが、平成30年度から3年と思っていただければと思います。まだ議会の議決も必要な事項もありますので詳しいことは言えないこともありますが、これから実践活動をしていきたいと思います。
私自身は大規模校で育ちました。川島小学校は本当に少人数教育でそれでも道はあるのかを自問自答を繰り返しました。しかし、大規模校で育った自分の価値観がどこかにあって、川島小学校の現状をどうなのかと思ってしまうことがあります。その中で嬉しかったことがありました。PTAの分科会が辰野中学校でありまして地域のPTAの役員さんも参加されましたが、その中で中学校の先生が「川島小から来る生徒を迎えるにあたってあまりにも対人関係が弱い先入観があったが、クラスを見ると常にグループの中心に川島小学校出身の生徒がいる。個人差があるかもしれないが、自己表現力がすばらしい」とお聞きしました。皆さんも現場に行ってみた

時に、静かでおとなしい子供たちと感じたかもしれませんが、私も頻繁に行ったわけではありませんが、少人数だからこそ自分の表現を出す、そういった毎日を送っていると感じました。

また、休み時間に一人ぼっちで窓の外や空を見上げながら、誰とも話をしないでいる児童がいると言われます。私はその現場を見たわけではありません。しかし、私からすると空を見上げながら空想の世界を巡らせていたら、あの自然環境ですので将来、大作家が生まれる可能性もあります。通り一遍の考え方ではなくて様々な面で子供を見て行きたいと思います。やはり私も子供のことを第一に考えて行きたいと思います。

＜教育委員＞

少人数が悪いとは考えていなく、大きい学校にいてもそのクラスに馴染めない子も中にはいるので子供たちの平等を考えると大きいや小さいという学校の規模ではなくて、居場所があって毎日楽しく通えることが大事だと思います。それは川島小でも出来ていると思いますが、町長も述べたとおり、中学校へ行っても活躍する子供がいるのは確かですが、タイプ的にそれが出来ない子供もいます。その子供にあった教育というのは大きな学校では難しいかと思いますが、コミュニケーションが限られた中では出来ないことはサポートするべきだと思います。

ひとつ疑問に思っているのは移住定住の方たちは「川島が良くて」とおっしゃいますが、川島小を卒業すると次は辰野中学に行くことになります。町として川島地区を気に入り、川島小に魅力を感じもらうことは嬉しいことですが、その後、辰野中学へ行き、さらには将来辰野町に住むことになるのか、私は「川島が良くて」ではなく「辰野が良くて」来ていただける方たち、中学を卒業した後も辰野町の高校、短大へ行っていただきたいですし、川島区以外でもみなさんその地区が良くて住んでいます。聞いていますと、「川島が良くて」という声が強くて、町はどうなのだろうという思いがあります。移住されてくる方も小学校以降も教育機関がそろっている辰野町ですので町を愛していただいて、ずっと住んでいただきたいと思います。

＜宮澤教育長＞

様々な評価の仕方があると思います。川島小学校をどうするかという部分ですが、地元の子供たちが行かないという部分が大きいのだろうと思います。去年の３月卒業した子供たち、今年の３月に卒業する子供たちは川島の子供たちです。しかし、今学んでいる子供たちは外から、特認校で来ている子供たちに替わって来てしまっている状況です。この部分のどのような変化を川島小へもたらすか心配です。少人数は認めますけれど、学級でも今までは複数でした。去年の３月までは４，５人とか３人とか複数の中まで生活をしてきてました。しかしこれからは１人になってしまう、ここが大きく変わっていてしまう。ここは考えていかないと、ただ単に表面的な部分を見ていても厳しいのではないのかという気がします。今までの子供たちとこれから中学へ上がっていく子供たちは、地元の子供たちでなくなって特認校、あるいは外から来た子供たちが上がってくる、教育委員さんが言った問題が出てくるのだろうと思います。そのあたりのことを考えていかないといけないと思います。非常に難しい状況に今年を境に迎えていくのだろうと思っております。ただ人数が何名です、というのではなくてこれから地元の子供たちでない子供が小学校中学校へ上がっていく時代を迎えます。

＜教育委員＞

教育長始め、他の委員と基本的な考えは同じです。教育的に少人数校の限界というものがあると承知をしています。少人数がだめということではなくて非常にメリットが多いと思います。川島小としての特色を出していくことは出来るかと思いますが、町全体から考えると保育園幼稚園から小学校、中学校ということを義務教育として教育委員会が考えるべきと思います。副町長からあったように地元の方から意見が出るようになってきて嬉しいということは、私もいいことだと思います。特色ある学校というのは、「おらが村の小学校」という感覚がないと出てこないと思います。地域とのつながりは非常に強いものが必要であると思います。教育長がよく言われている「複数園から１つの小学校、複数校から１つの中学校」のような子供たちがステップを踏んでいくような町全体の教育行政は大事であると思います。１つは特認校というもので来られている方は特色ある小学校ということですので、気に入った人しか来ないのが現状です。特認校ということでなくてもともと川島小学校で特認校にならずに過去の状態を保ってこられた可能性もあったと思います。過去と現在の問題を照らし合わせるのはおかしいですが、そういったこともあると思います。

少人数になっていく過程が、やはり山村地で子供が通うのに合併すると１時間以上かかってしまう、飯田の上村地区の学校の環境と川島小学校の環境は異なっています。車を使えば１５分で小学校がありますのでどうしても子供が通えなくて最終的に子供が１人になってしまっても、学校を維持しなくてはならないということではないと考えています。教育をお金や数量等で測ってはいけませんが同じ立場でお子さんを学校へ行かせている家庭からすると不平等と感じてしまう人がいることは否めないと感じます。ICT 教育での他校との交流を川島小学校でも盛んにやっていただいていますが、個人的に川島小学校に他校との交流を求めていない人が特認校で来ているのではないかと取ることも出来るのではないかと思います。

非常に川島小学校は特色のある小学校である意味、町として残していくことは間違いではないと思います。例えたった１人になったとしても特認校で来てくれる子供がいる以上は町としては存続していきます、というのはありだと思いますが、教育的に考えると１人になってしまった子供に最低限の教育ができるかどうかと考えたときに問題の方が大きい、と思っています。町長が昨年度の総合教育会議で３年間のチャレンジ期間を出されたというのは非常に大きなことだと思います。今までの検討委員会では期間リミットというのは出てなったので、ここで期間をきちんと決めて我々が取り組んでいくという方向性を出してくれたことはすばらしいことだと思います。

＜山田副町長＞

1 点、特認校の件につきましておっしゃられた通りだと思います。1 月 31 日にした連絡会議でも同じような話がありまして川島小学校の HP から特認校についてのページにいけます。そのページにいきますと、一般的に小規模校で見られる傾向ということで、教育委員会で長所と短所に分けて説明してあります。ところが、短所の部分で、人によっては長所になるのではないかと言われました。そこで HP を見ていただくとわかると思いますが、長所短所とは勝手に決めてしまったことなのでその文言を取ろうということで話になりました。（その後、教育委員会の担当者によって HP から削除済みであることを確認した。）

＜宮澤教育長＞

その件について非常に難しいところだと感じます。特認校制度によって入学した児童と地元の児童が半数ずつである学校であれば、他校とのICTを利用した交流を躊躇無く進めていけますが、ところが現実はそうではなく、地元の子供たちが外に出て行ってしまっている状況ですので、なかなか出来にくい状況です。あえて少人数を求めてきている児童を西小や東小へ連れて行くことはその家庭が本当に望んでいることなのかということもありますので、月１回ほどで出来る限りの範囲ですが行っています。本来川島小学校の規模でしたら町の車で連れて行くことが出来ますので週に１回程度交流学習、西小で体育をする、東小で音楽をすることは十分可能です。そこが今出来にくい状況にあります。教育委員会としてもつらい部分でもあります。

いずれにしましても、3年間のチャレンジ期間では実際に学んでいる子供たちの教育環境の維持は教育委員会として全力を考えていますし、川島だけでなく、辰野町全体の小学校中学校のあり方についても考えていかなければなりません。その時になって考え始めてもいけませんので今からも出来る協議をしていかなければなりません。社会がこれだけめまぐるしく変化していくので町内の小学校中学校のあり方については今まで考えても見なかったモデルやスタイルがあるのかもしれません。今日、義務教育学校として出来た学校はいくつかありますが、これも１つの試みであると思いますが、全国的に見てもある自治体が我々が思いもつかなかった挑戦をしかけることもあるかもしれません。

明日の辰野町の学校のあり方は検討していかなくてはいけないと思います。では、教育長は何を考えているかと言われても今のところ妙案はありませんがどこかにこの辰野町にふさわしい小学校のあり方中学校のあり方があるのだろうと思います。ただ根本については、「複数の幼稚園、保育園から１つの小学校に通う。そして、複数の小学校から１つの中学校に通う。」ということはぎりぎりまで維持したいと思います。子供たちの発達段階によって、人間関係を少しずつ広げていくことは必要だと思います。一本で通してしまうと人間関係でもまれること、新たな人間関係を築くことが必要ないので、その後が困るのではないかと思います。

＜加藤こども課長＞

連絡会議で事務局への要望等で強かったのは情報発信についてです。HPについては、システムの管理上、一時閉鎖していた期間もありましたが整備をしまして、各小中学校のページを公開しています。学校の情報発信についてはさまざまな要望を頂いていますが学校の地元が感じるものはぜひ地元の方でやっていただきたいと教育委員会側からお願いしまして、地元の皆さんが開設したHPへリンクできるようになっております。

（２）町内小･中学校の教育環境について

① 今後の整備計画（空調設備、トイレ洋式化）　【資料№１、№２】

② 新学習指導要領に伴う整備（ICT教育環境整備）【資料№３】

・加藤こども課長より資料No.1～3について説明。

（３）町内社会教育関係施設の整備について　【資料№４】

① 町民会館、町民体育館

② 荒神山スポーツ公園内施設

③ 小野図書館の方向

④ その他
・原生涯学習課長より資料 No.4 について説明。

（4）保育園関係整備について
① 平出保育園の今後　　【資料№５】
② 空調設備整備計画　　【資料№６】
③ その他
・加藤こども課長より資料 No.5、6 について説明。

（5）意見交換
＜山田副町長＞
来年度、今の予算査定が終わりまして、プレス発表がまだですので詳しいことは言えませんが教育費がすごく伸びています。来年度は 2 億 7 千万ほど増加します。教育費のみ突出して伸びています。これは空調の関係です。空調は役場内からも要望がありましたが保育園小中学校を最優先してあります。もうひとつは ICT の関係です。これも率先してやらなければならないことです。子供たちの未来を考えると最優先にさせていただきました。また、トイレの洋式化ですが、空調の整備が入ったものですから 5 カ年計画で整備していきます。
保育園の無償化が今年の 10 月から始まります。国から交付金として町に来るということですが詳細な通知がまだありませんので、今年度についてはまず保育料を集めさせていただいて確定次第、補正予算をもって調整ということになる予定です。
町内の施設の使用料の関係ですがこれも今年の 10 月の消費税増税に伴い辰野町の場合、過去の増税の際など使用料を上げてきていませんでした。昨年度 1 年かけて使用料について検討してきました。その中で、荒神山のスポーツ施設、体育施設の照明料、町民会館の使用料の見直しをしまして、使用料の改定をいたします。議会を通らないと決定は出来ませんが、そのようなことも検討していますのでよろしくお願いいたします。

＜加藤こども課長＞
保育料の無償化の件ですが、まだ詳細が国からも示されていません。現在確定しているのは、3 歳以上児は保育料が無償化、3 歳未満児については住民税非課税世帯のみ無償化になるそうです。現在、保育料の中には給食費が一部含まれています。しかし、国が示す保育料とは保育のみのことで給食にあたる部分、その他実費に当たる部分も明確にされていません。また、無償化に係る予算については国が用意するようですが、最近の情報では市町村の公立の保育園については補助金交付金ではなく、交付税の中に含めていくようで具体的に明示された形で財源を補ってもらえるかわからなくなりました。昨今の状況によりますと、初年度のみ国で補うが次年度以降は自治体にも負担を求めますので、国が保育料の無償化を行うことは難しい状況であると思います。情報を見極めながら制度設計をしていく必要があると思います。

5．総括
（1）町長
本日はありがとうございました。約 1 年振りの総合教育会議でしたが、教育委員

会の主導によりまして、たつの E サミット等、これからの辰野町の教育を考えていただいています。現状の課題、問題をどう解決していくかや、個人的な要望ですがこれから 5 年先、10 年先の辰野町の教育環境がどうなっているかわかりませんので、将来展望も含めて議論をしていただきたいと思います。

先日の飯田市長の勉強会で印象に残った言葉を紹介します。ひとつは飯田市内にある上村小学校を残すと決断したときのもので、小学校を守る観点ではなく、市長は何を感じたかというと、まず遠山郷には様々な伝統や文化、芸能もあります。感じたことは、「小学校がなくなるということは地域の担い手がなくなることだ。いずれ地域がなくなるんだ。だから市長として何が何でも上村小学校を残すんだ」ということをお聞きしました。

また、先日新聞発表にもありました人口の動向の件ですが、1 点変わっていないのはいまだに東京一点集中しているところです。どんな移住定住施策を国の補助を受けてやっていても東京に集まる人は増えているということです。若い高校生が就職、進学するために上京することはしょうがない、しかし、いずれは地元に帰ってきてもらいたい。そのために田舎に住んでいる我々は何をしたらいいのかというのは実は、地域人教育を進めることが 1 つの政策の柱です。地域で育って先人たちの思いや色々な数珠繋ぎでいくことで帰ってきてくれる人が増えるのではないかと思います。これは即効性のある政策ではありませんが、力を入れて行きたいと思います。特に上京する直前の高校生に地域の思いを伝えて行きたいと思います。高校を出たら上京する人もいる中で、地元で働きたいと思う高校生もいます。中学生にも地域人教育をして将来ふるさとの為になるのではないかと思います。

非常に難しい問題が多く、子供たちを地域で育てていくのか難しいです。少なくとも私の思いは地域でがんばって学んでいる子供たちを大事にしていきたいと思います。誤解されないように再度言いますが、特に川島小学校の子供たちだけではなく、全ての子供たちを平等に考えて行きたいですし、行政的なことが絡んでしまいますが、移住定住政策を進めて行きたい、何もしなければ川島地区は衰退してしまうことは目に見えてわかりますし、少なくとも今は移住希望者には空き物件があるので一番先に埋まるのは川島地区ですので、人口が減っていることは食い止めようがありませんが、減り幅を減らすことについて川島に寄せる思いは強いところであります。

（2）教育長

本日はありがとうございました。改めて町長の思い、教育行政に対する思いを聞いて、教育委員会としましてもありがたく思います。教育委員会の立場を改めて尊重していくという言葉もありましたので嬉しく思います。教育行政というのはお金がかかることであります。副町長も言われましたが一年前は、エアコンの「エ」の文字も考えていなかったところに半年たったらエアコンを設置しなくてはならなくなりました。

突然新しい教育課題が出てきますけど、町長副町長共に町の教育行政を非常に大事にしていただいていると感じます。エアコン以外にも学習指導要領が大きく変わって、ICT の関係が大きく予算に入ってまいります。2020 年には町内の小中学校で必要な環境が揃うということで大変ありがたいと思います。逆にこれだけ膨大な財政的な措置をしていただけることは教育委員会としては襟を正していかなければならない、有効に利用し効果を挙げていかなければいけないとそんな課題もあります。

小回りを大切にして何かあればすぐに町長へ相談してきたわけですが、これから

も大事にしていきながらも、周囲への発信を考えますと来年度からは総合教育会議を2回開催していきたいと思います。新年度が始まり、軌道に乗ったところで1回、年度末にまとめの意味をこめて1回、の計2回できればと思っております。

突然課題が出てきまして、テレビでもご存知の通り、野田市の女児虐待事件で市長と教育委員会が謝罪をしている会見を見るともし辰野町で起きていたらと思うと、とても考えさせえる事例です。高圧的な態度で、身に危険を感じるような状況であったとも報道されています。もしかしたら全く同じことはないかもしれないが、似た事例はあるかもしれません。その時にどういった対応をするのがいいのか、事務局にも問いかけをしました。正直、私も命を守らなくてはならないということはもちろんですが、もしその場にいたらどんな対応を取っていたか、いいのか答えを出せないでいます。教育委員会事務局として考えていかないとならないことです。難しい課題でありますが、こういった課題があれば町長の方と緊密に協議をして進めて行きたいと思います。先ほども言いましたが、目の前の課題と5年先10年先の未来の辰野町をどう描くか、共に連携を取りながら行きたいと思います。本日はありがとうございました。

6．閉会のことば

＜小野総務課長＞

それでは閉会とさせていただきます。ありがとうございました。